

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園



撮影：青森中央学院大学経営法学部3年 PHAM THANH HUONG

特集：大坂谷啓生選手 ドラフト指名

vol.92

目次

特集：大坂谷啓生選手
ドラフト指名 2

サークル活動報告 5

青森中央学院大学 6

- ・学生団体「選挙へGO!!」最優秀マニフェスト賞受賞
- ・G-コマース
- ・トライアウト
- ・懸賞論文学生特別賞受賞
- ・「改革総合支援事業」4タイプ選定
- ・国際交流センターより
- ・学生による地域活性化のためのプレゼンテーション
- ・ゼミ探訪
- ・私の1冊
- ・OB通信
- ・看護学部海外留学体験記
- ・アフロハープリレーマラソン参加
- ・シャドーイング実習を終えて

青森中央短期大学 10

- ・特別研究
- ・食物栄養学科学生レシピ紹介
- ・幼児保育学科44期生卒業記念公演
- ・青森中央高校生徒の交流会
- ・トータル介護アドバイザー
- ・青山幸広の生き生き介護
- ・カワイピアノ演奏グレード5級合格
- ・親子でそば作り体験
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園 12

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 14

- ・Bunka Fashion Live 2014
- ・駅からハイキング&ウォーキング
- ・販売知識と技術を得た店舗実習
- ・学生パソコン教室
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

学園共通 16

特集

大坂谷啓生選手 ドラフト指名

—わが道、ひたすらに—

—今の気持ち、どうですか。

落ち着きました。興奮がおさまって、だんだん実感がわいてきたっていうのかな。

—早速、予定が入っているとか。

1月10日入寮で、2月から、沖縄キャンプです。

—即、本格的という感じ。東北楽天ゴールデンイーグルス（以下 楽天）ですね。印象を一言。

楽天に入れて、この上なく嬉しいです。楽天のファンでしたから。仙台がベースだけど、宮城の楽天じゃなくて、東北の楽天って一括りにするところが好きです。球団からは、自分が青森県では初めてだから「期待してるよ」って言われたのも、すごく嬉しい。

—ニックネーム、青森出身だから、「ねぶた!」と答えたそうですが。

いきあたりばったりで、言ったんだけど、めっちゃ、うけましたね。

—プロになろうと思ったのはいつ頃から?

プロになることを考えたのは、1年の冬頃。でも、その時点の実力では、プロになれるとは思っていなかった。だけど、4年間やれば何とかかなかなと。ただその時の予定としては、社会人球団に一旦、入ってから、プロを受けようという考えでいました。まだ通用しないんじゃないかっていう気持ちがあって。ところが、4年になっても社会人球団から話がなかったんです。というのは、補強のポイントがあって、右投げの外野手の枠があって、それに入らなかった。それでだめそうだったので、9月にプロ志望届を出すことにしたんです。

—なかなか英断でしたね。結果的には近道にはなったものの、清水の舞台から飛び降りるような心境だったのでは。

社会人がだめだってわかった時の気持ちは、真っ暗でしたね。自分、就活もやってなくて、4年になっても、試合、試合のひたすら野球生活で。同級生が企業訪問やってる時にですよ。

—ちょっと焦った?

正直、ちょっとね。「無理なんじゃないの」なんて言われているのも耳に入ってきてたし。

—だけど、2つを天秤にかけられない性分。

その通り。よく言えば一途、悪く言えば不器用。自分でもよくわかってる。

—何か物事を成すということはそういうことでは。

—そうなんですかね。とにかく、この上はいちかばちかやってみるしかないなっていう。

—背水の陣でことにあたる、思わぬ道が開けることに。

—そうですね。人間、覚悟を決めると、恐いもの知らずになるものですね。

—そもそも野球を始めたきっかけは。

—そんな劇的な動機はないですよ。小学校3年の時、自分の学校100人しか生徒いないんですよ。それでもって、3年になるとクラブ活動をしないといけない、男は野球、女はソフトボールしかなくて、仕方なく野球やるしかなかった。ところが、やり始めたら結構いけて、おもしろくなったんです。

—初めから才能があったんだ。

—そうなんですかね。高校の時も、結構いい感じで、絶対に全国大会へ行くんだ、って思ってやっていた。結局、行けなかったですけどね。

—これまでの野球人生で思い出に残ることは。

—大学2年の春、富士大のピッチャーから満塁ホームランを打ったことかな。それで、自信を持ちましたね。それと2年の秋と3年の秋に、外野手でベストナインをとったことかな。

—さて、今後ですが、抱負を話してもらえますか。

—育成選手なので、支配下に登録されないと、1軍の試合に出れません。今後1、2年が勝負になります。それで芽が出なければ、方向転換を考えるしかありませんが、今は、やれると信じて頑張れるだけ頑張ろうと思っています。

—ネガティブなことを考えずにということですね。

—ネガティブなことを考えずに、ひたすら己を信じます。

—厳しさの予想レベルは?

—今の20倍!

—後輩と同輩へのメッセージを。

—さらに上でやりたいという後輩に、この大学でもできるという実績ができたので、励みになればいいかな。同級生には、最後まで応援してくれてありがとあって、心から叫びたいです。ホント、ありがとう。

—最後に、君にとって野球とは

—人生そのものって、カッコいいこと言いたいけど、この先見てみないとまだ言えないかな。だけど、少なくとも僕のバックボーンになっていることは確か、と、控え目に言っておきます。

—十分、カッコ良いです。豊かな野球人生となるよう祈っています。Good luck!

(インタビュー：加藤 澄編集長)



ドラフト会議

10月23日、プロ野球ドラフト会議が行われた。監督、硬式野球部のチームメイトが見守る中、大坂谷啓生選手は、東北楽天ゴールデンイーグルス育成枠第2位として指名された。名前が呼ばれた瞬間、チームメイトから「おっ！」という歓声が上がリ、大坂谷選手の快挙を祝福した。

指名後の記者会見では、「自分自身も東北出身で、東北の球団に入れてうれしい。早く支配下登録されるように頑張りたい」と抱負を述べた。

そして入団!!

ドラフト会議での指名を受け、11月19日、東北楽天ゴールデンイーグルスのスカウトが本学を訪問し、指名挨拶と入団交渉が行われた。交渉の結果、契約合意に達し、本学初となるプロ野球選手が誕生した。

続く12月1日、仙台市内で新入団選手発表会が行われた。背番号は「123」。会見では、「早く桁を減らせるように頑張りたい」と決意を新たにしていた。



サークル活動報告

バスケットボール部

第75回 桜祭り協賛北日本バスケットボール大会 男子 優勝/女子 準優勝
 第15回 東北大学バスケットリーグ2部 男子優勝・一部昇格
 第25回 青森県大学交流バスケットボール大会 男子優勝

バスケットボール部男子は、昨年東北大学リーグ一部昇格を目指しながら叶わなかった先輩たちの悔しい思いをバネにして練習を頑張ってきました。その甲斐あって10月の入れ替え戦では、山形大学を倒して一部昇格を果たすことができました。そして、12月の東北大学バスケットボール新人大会では、その勢いをそのままに、数々の強豪校を倒すことができました。決勝戦では負けてしまいましたが、それぞれ課題も見つかり、これからの目標ができました。来シーズンからはそれらの課題を克服して、さらに上を目指して頑張っていきたいと思います。

(バスケットボール部2年 大下 友太郎)



ボウリング部

第11回 北海道・東北学生ダブルス選手権大会 第1位・第3位
 第46回 北海道・東北ボウリング選手権大会 4人チーム戦 第1位・第2位
 北海道・東北学生ボウリング秋季リーグ戦 第1位
 文部科学大臣杯争奪第51回全日本大学ボウリング選手権大会 女子2人チーム戦 優勝(2年連続全国制覇)

ボウリング部は、前年度の全日本大学選手権大会において男子は4位入賞、女子は優勝という成績を取め、今年度は女子連覇、男子は初優勝を目標に日々の練習に取り組んできました。結果として、女子は連覇、男子は4位入賞でした。惜しくも男女そろっての優勝とはなりませんでしたが、女子の二年連続優勝という目標を達成することができました。

ボウリング部の支えとなり、大きな戦力となっていた4年生は今年卒業となり抜けてしまいますが、新たに戦力となる新入生とともに男女とも全日本大会優勝を目指して練習に取り組んでいきたいです。

(ボウリング部2年 工藤 壽紀)

硬式野球部

北東北大学野球春季1部リーグ戦 2位/ベストナイン賞 外野手部門 高田哲平
 北東北大学野球大館トーナメント 準優勝/優秀選手:村上孝平

野球部の昨年の成績は春のリーグ戦が同率2位、秋のリーグ戦が4位と年々、着実に力をつけてきており、優勝争いに加わることができています。また先輩の中には、本学初のプロ野球選手が出たりして、野球部全体が刺激を受けています。ために今年度のリーグ戦に向けて、選手一人ひとりが今までになく気持ちをハイにして、勝負意識良好です。

試合だけでなく、野球を通して地域の中学生と合同練習会を開いて、野球を教えたり、交流を深めたりして地域の活性化をはかるとともに、青森野球全体のレベルアップに取り組んでいます。

昨年度のチームが4年生中心で動いていたため、今のチームに固定メンバーが少なく、全く違うメンバー構成になっています。昨年を越えるチーム作りをと、今から切磋琢磨をしています。



青森中央学院大学

学生団体「選挙へGO!!」最優秀マニフェスト賞(市民)を受賞

学生団体「選挙へGO!!」は、2011年の6月に、若者の投票率向上を目指す団体として、青森県で設立された。2014年現在、青森県内3大学10人の中心メンバーで構成されている。学生団体「選挙へGO!!」が今年度に行ってきた主な活動として、

(1) ネット版政見動画「政治家tube」、(2) 未成年模擬選挙、(3) 政治家と学生による居酒屋トークがある。中でも、最も力を入れてきた活動が「政治家tube」です。

「政治家tube」とは、青森県内の政治家に自身の政治に対する思いや政策、若者向けのメッセージを語ってもらう動画をわれわれで撮影し、インターネット上に公開するというものである。選挙に際しても、立候補予定者の動画を撮影している。これらの動画は政治情報サイト「政治山」の協力で、特設ページで配信しています。

中でも、「青森市議選版」では、10月26日の青森市議選に向け、8月に、青森市議会の現職40人のうち30人から協力が得られ、「任期4年間で振り返って」をテーマに撮影した動画を一斉公開した。さらに10月には、「思いとマニフェスト」

をテーマに立候補予定者44名中36名の動画を撮影し、公開した。この2つの動画を見ることで、市民が任期中の成果と今後実現したいマニフェストの両方をセットで確認することができ、投票の有益な情報になることをめざした。

このたび名誉あるマニフェスト大賞の最優秀マニフェスト賞(市民)を受賞したことは大きな喜びである。私たちは、「ネット選挙」が地方選挙でこそ、政治家、有権者にとって有効なツールになると思っている。地方議会に対する不信感が高まっている中、少しでも自分たちの暮らす地域の議員を知り、選挙の際の判断材料となる動画を、若者に身近なネット上で配信することが必要である。この活動を後輩たちに引き継いでもらうことにしている。

(学生団体「選挙へGO!!」副代表 松山 賢二)



G-コマース

平成26年度スタートしたG-コマース、これまでのE-コマースとどこが違うのによく聞かれる。「Eを超えるGを目指します」と答えることにした。E-コマースは、本学学生が地域企業と一緒に若者の視点で創り出した商品をネット販売することをゴールに活動した。G-コマースは多くの学生が参加できるよう、3つのコースを考えた。地元商店の「お店の逸品」を選び、販売促進をサポートするグループ、また、新町商店街のイベント企画・運営に参画、活動は様々であった。活動の舞台は新町商店街、学内を飛び出し、バス2台で新町商店街まで送迎、金曜日の午後の閑散とした通りを120名の学生が闊歩する様子を見て何事かと振り返る人もあり、圧巻であった。これが授業なのかと疑問を感じながら参加した学生も中心商店街の厳しい現状を見聞きし、その中で生き残りをかけて活動する若手商店主の意気込みを感じてくれたのではないかなと思う。もうすぐ、学生が作成した逸品ポスターが参加企業の店頭に掲示される。G-コマースに協力いただいた新町商店街振興組合、本学関係者の皆様に改めて感謝の意を表したい。

(経営法学部教授 高山 貢)

トライアウト

今年のトライアウトでは、「本当に受けたい企業」をテーマとして、学生が県内外の魅力ある企業に対して取材を行った。そして、その会社を聴衆たる他の学生に紹介し、企業の魅力・プレゼンの完成度についてフロアからの評価を求めるという、オーディエンス参加型の発表会に挑戦した。

経営コンサルティング事務所取材したベトナムからの女子留学生は、経営支援を「企業にとっての医療」に例えて工夫を凝らしたプレゼンを用意したが、フロアからは惜しくも「就活生失格」の厳しい評価。女性の活躍を応援する企業をターゲットにして、冷蔵機器の大手メーカー取材した女子学生は、詳細なデータを示しながらその会社の将来性について熱弁をふるった。フロアからは喝采が贈られ、「内定確定」判定。他には、昭和を彷彿させる「モーレッツ営業マン」への挑戦を呼びかけるプレゼンも。いずれの報告にも、成長への強い意志と一人ひとりの個性が光った。

(経営法学部准教授 椎名 智彦)



懸賞論文学生特別賞受賞に際して

青森学術文化振興財団の懸賞論文コンクールに高山ゼミ4年のメンバー4人が共同研究の成果として論文を応募した結果、学生特別賞を受けた。テーマは「留学生から見た青森県インバウンド観光の可能性」である。

近年、青森市への大型クルーズ船の寄港、青森駅周辺で見かけるアジア諸国からの観光客をみて、メンバーが外国人から見た青森の魅力は何だろうと考えたのが研究の発端である。

ベトナムからの留学生ニンさんを中心に本学留学生にアンケートを実施したり、文献調査で日本の観光戦略「VISIT JAPAN」を調べたり、メンバー全員がゼミ活動の時間に話し合い、計画を立てた。

4年生は卒業論文作成前の腕試しと懸賞論文を完成させ、すばらしい特別賞を受けることが出来た。

4年間学んだ成果としてメンバーと高山先生共々喜んでいる。



「改革総合支援事業」4タイプ選定

文部科学省は、大学の教育改革やグローバル化をより一層推進するために、全学的・積極的に取り組んでいる大学等を全国から選定し財政支援する「私立大学等改革総合支援事業」を行っている。具体的には、教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組んでいる私立大学等に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援している。

この度、本学の積極的・革新的な教育活動が評価され、全4タイプで選定された。この事業には全国の大学等の8割にあたる745校が応募し、全4タイプで選定されたのは全国で本学含めわずか8校であった。今後は更なる教育内容の改革・改善を推進していく。

- 「私立大学等改革総合支援事業」4タイプ**

 - 「教育の質的転換」(タイプ1)
 - 「地域発展」(タイプ2)
 - 「産業界・他大学等との連携」(タイプ3)
 - 「グローバル化」(タイプ4)

国際交流センターより

< 高校との連携 >

経営法学部及び大学院地域マネジメント研究科に所属する留学生が、青森市内の高校の事業や企画に参加し、高校生への英語教育に貢献した。

☆青森南高校外国語科☆

10月4日、外国語科2年生がアメリカ語学研修旅行で小・中学生向けに行う英語による日本文化プレゼンテーションの内容へのアドバイスや留学生の母国紹介を行った。

☆青森高校☆

10月20日、「グローバルマインドを持った人材育成」を目的としたスーパーグローバルハイスクール(SGH)事業の一環で行われた意見交換会に参加し、留学生の母国の課題や留学生から見た青森県の課題を英語で意見交換した。

☆青森明の星高校英語科☆

10月24日、「グローバル教育企画」の一環として行われた交流会に参加し、留学生と高校生双方がそれぞれのプレゼンテーションを行い、地元の青森がどういうところであるのかを確認し、留学生の出身国についても学ぶ交流会となった。

「日本語学習支援ネットワーク会議2014 in 青森」開催

国際交流センターは、青森県内で活動する地域日本語教育従事者に対して、日本語教育力向上に関する講座を多数開催してきたが、平成26年度は、日本語教育従事者や個人、一般の方を含めたネットワーク化を進めるため、11月1日、公開研究会として「日本語学習支援ネットワーク会議」を開催した。

この会議は、東北各県で毎年持ち回り開催されてきたものが、今回初めて青森で開催されることになり、国際交流センターでは、地域の発展へ貢献するため主催として取り組んだ。



学生による地域活性化のためのプレゼンテーション

地域の活性化のためのワークショップ等に多くの学生が参加し、日ごろの研究成果を発表している。財団法人青森学術文化振興財団主催の懸賞論文「青森県の地域振興に関する私の提言」では、経営法学部高山貢ゼミ4年生（代表：鎌本圭太）が、学生特別賞を受賞した。「まちづくり形成市民懇談会」（青森市主催）でも経営法学部の学生6人が青森市内の四大学の学生と鹿内青森市長を交え、青森市の景観についてのワークショップの中で、青森市長へ提言を行った。また、「学生発未来を変える挑戦フォーラム」（青森県主催）ではグエン・チ・ギアゼミ、「知的財産活用ビジネスアイデアコンテスト」（青森県主催）では、塩谷未知ゼミがそれぞれの研究成果を発表した。他に青森県未来の起業家育成事業として、内山清ゼミ生が、地域企業と協力して、新たな「お土産作り」に取り組んでいる。



(まちづくり形成市民懇談会)

私の1冊

経営法学部 金美和先生

『人は情熱がなければ生きていけない』

浅田次郎著（講談社,2007）

約1年に渡り闘病生活を送った。自由に動き回れない分、唯一の楽しみは本を読むことだった。その読書すらまともにできない辛いときもあった。少し体調が回復したときに手に取ったのがこの本だった。著者が自らの経験をもとに書き綴った短編エッセイ集である。「人は何に生きがいを見つけるか〈天職への情熱〉」では、憧れの小説家・三島由紀夫との出遭いとその思いが切々と綴られている。憧れの存在は人生の目標となり、あらゆることの原動力になるのだと思う。出逢いは人生を大きく左右する。三島由紀夫は直後に最高傑作となる『豊饒の海』を完成させ自決した。青年だった著者は二度と会うことのない三島に思いを馳せ、小説家になる情熱を持ち続け、実現させる。著者が小説家になるまでの人生は波乱万丈だが、ユーモアに溢れ、困難に立ち向かう者に勇気を与えてくれる。情熱があれば生きてゆけるのだと。

落ち込んだとき、人生の道に迷いそうになったときにそっと道標を示してくれるような1冊です。

ゼミ探訪～太田航平ゼミ～ Vol.29

私たち太田ゼミではいつも、賛成・反対・審判に分かれてディベートをしています。賛成組と反対組はレジメを作り、そのレジメをもとに話し合いを行います。最終的に審判が、どちらの方が説得力があったかを判断します。私はこのゼミで、情報をまとめる力と自分の意見を相手に発信する力を身につけることができました。レジメは相手わかりやすいよう、簡潔にまとめなければなりません。そして自分の意見を発信するには、まず自分が何を言いたいか理解し、それを相手にどう伝えるか自分で考えなければならず、最初のうちはとても苦労しました。

私はこれから太田ゼミで学んだことを生かし、学校生活に役立てていきたいと思っています。



(経営法学部1年 佐藤 美優貴)

OB 通信



拝啓 青森中央学院大学様

私は平成20年より、学校法人東奥学園高等学校に勤務しております。校務においては学級担任、部活動顧問。分掌においては、生徒指導部に属し、生徒と様々な関わり合いを持ちながら日々過ごしております。

中でも特にやりがいを感じ、力を注いでいるのが部活動指導です。赴任以来、硬式野球部の監督をさせて頂いており、教育の一環である部活動を通して、生徒の人的成長を最大の目的として心掛け指導しています。

後輩の皆さんには、日々向上心を持ち、精進することで自分の進路目標が実現できる近道であるということを強く伝えたいです。また、卒業後、仕事に従事してからも、前向きに取り組む中で自分自身でやりがいを見出し、いくことが大事だと考えています。

『人は人からの評価のなかで生きている』という言葉があるように、挨拶や言葉遣い、社交性といった社会人として最低限身につけておくべき点を大学生活で更に追求し、磨きながら社会に巣立つ「準備」を入念にしてほしいと思います。

皆さんの活躍を心から祈っております。 敬具

経営法学部第6期生 桜庭 瑞人

看護学部海外留学体験記

台湾・南台科技大学
看護学部1年 鶴谷 麻実

高校生の時から留学生との交流や海外留学に興味があり、後期で中国語を学ぶためにも中国文化に触れてみたいと思い、台湾のサマーキャンプに3週間参加しました。現地学生がパートナーとしてついてくれ、一緒に台湾の文化体験をしたり、買い物に出かけたり、一日一日がとても充実していました。中国語を学ぶだけでなく、台湾の方に日本語を教える時間もあり、台湾の友人もたくさんできました。グループ活動では必ず自分の意見を言わずにはならず、積極的に発言する大切さを学びました。留学したことで、台湾と日本の文化や考え方の違いを学び、視野も広がり、コミュニケーションにも少し自信ができました。留学して得たことを勉強や実習などに活かしていきたいです。



アフロハーフリレーマラソン参加

看護学部1年 田嶋 イヨ果

アフロハーフリレーマラソンは、1チーム5人～10人程で1周750mのコースをアフロかつらをたすきにリレー方式で28周（ハーフマラソン21km）走るものです。私は今年度新設された看護学部のPRに貢献したいと思い、お揃いの看護学部のTシャツを着て、10月25日に開催されたこの大会に、学生と先生方と一緒に挑みました。

1周750mはかなりきつかったのですが、たすきを次の仲間が待っているため必死に走りました。体力の少ない女子の為に男子学生が1周多く走ったり、大きな声援を送り合ったりチームワークが生まれました。

残念ながら入賞は逃しましたが、看護学部のPRができたこと、そして、最後までたすきをつなげられた事が何よりも大きな思い出です。



アメリカ・ペノブスコット語学学校
看護学部1年 百澤 友香

私の夢は、看護師になり、海外ボランティアに参加することです。子供のころから海外に興味があり、海外に行くことに憧れていました。英語は苦手だったので、留学して外国の方々との日常会話に挑戦して英会話を学ぼうと思い、アメリカのペノブスコット語学学校に3週間留学しました。ホームステイ先では英語で一生懸命伝えようとして、3週間で英単語のボキャブラリーが増えました。また今まで勉強してきた基本的な会話と実際の会話の違いを発見することができました。英会話教室よりも、自分でラジオを聞いたりと英語が聞き取れるようになるとアドバイスをもらったので、さらに勉強をして海外でボランティアの夢に近づきたいです。



シャドーイング実習を終えて

看護学部1年 北川 果歩

12月に2日間のシャドーイング実習のため、青森県立中央病院に行きました。実際に看護師の後ろについて歩き、看護師の1日の業務の流れや患者さんの病床環境、コミュニケーションの大切さなどについて学ぶことができました。

私は2日間実際に患者さんと話す機会がありました。初めての臨地実習で緊張してしまい、1日目は自分から会話を切り出すことがなかなかできませんでした。2日目の実習では病棟の雰囲気少し慣れたことと、患者さんと共通の話題を見つけられたこともあり、1日目よりは会話を広げていくことができました。しかし、2日間で患者さんに助けられた場面がたくさんありました。話しているときに患者さんが笑ってくれたり、2人で笑い話ができたりしたときは本当に楽しかったです。また、患者さんの家族や多くの職種の方とのコミュニケーションも大切だと感じました。

今回の実習で学んだことを忘れずに、今後の実習や学校生活に生かしていきたいです。



青森中央短期大学

特別研究

食物栄養学科

11月27、28日の2日間にわたり、特別研究の発表会が開催された。短命県返上を掲げた青森県の食生活を取り上げた研究、食品の成分、県をPRする食品の開発のほか、携帯電話のアプリケーションを活用した食事管理システムといった現代ならではの研究など、多彩なテーマで計39演題が発表された。

2年生にとっては、1年後期から取り組んだ研究を7分に集約して発表するという、研究をはじめプレゼンテーションに関連する知識や技術など、全ての学習の集大成である。発表会では、その努力に見合う活発な質疑応答が飛び交った。社会人になっても、今回やり遂げたという事実を自信に変えて、あきらめずに物事に取り組んでほしい。



幼児保育学科・専攻科福祉専攻

今年度も、昨年度より実施されているポスター発表形式により特別研究・修了論文発表会が実施された。研究した事を視覚情報で発表するポスター発表と、ポスター内容をより分かりやすく声として発表する口頭発表の2つの表現の仕方により、伝えるという事の難しさと楽しさを感じる事が出来ただろう。昨年度との違いとして、場所を2号館に移した事により、特別研究43・修了論文11テーマで実施された各研究室の発表をよりスムーズに行き来する事が可能となり、聞き手からもより積極的な参加が見られる場となった。論文の完成と発表を聞き手に伝えるという体験により2年間の学びの成果を実感できたと期待する。



食物栄養学科生がテレビ番組でレシピを紹介

青森米本部が、県産米の需要の拡大等を目的に作成している、A TVの番組「青森 de Mori-Mori Kitchen」。昨年に引き続き、食物栄養学科の学生が考案したレシピを本人が出演し紹介した。今年は8月に2年伊東香織さんの「ヘルシーサラダ丼」、2年大間桃子さんの「ころころ オムライス」の2品が、10月には、2年新谷千秋の「ライスピザ」、2年坂田理奈さんの「ライスチジミ」の2品が本学の121実習室にて収録され、それぞれ9月と11月に放映された。一見簡単に思えるレシピの考案だが、「米が主役で見栄えが良く、手軽に作れて、且つ興味を覚えてもらうひと工夫を加える」と意外とハードルが高い。4人の学生は見事ハードルをクリアした。



※青森 de Mori-Mori Kitchen:
奇数週金曜日11:25~11:30放映



幼児保育学科44期生卒業記念公演

今年も12月に、アウガ多機能ホールにて幼児保育学科記念公演が開催されました。毎年のことながら「立ち見が出るほどの来場者」・「感動の拍手」・「学生の真摯な姿と涙」に、会場はたとえようのない幸せな時間に包まれました。

今年の演目は、名作サン・テグジュペリ作『星の王子様』であったため、学生たちがどのように自分たちのミュージカルにリメイクしていくのか、私たちも興味深く見守っていました。44期生の『ミュージカル 星の王子様〜心 君と過ごした時間〜』は、作品の詩的な世界を保ちつつ、しっかりとテーマを探求し、笑いと涙を盛り込んだオリジナリティ溢れる作品に仕上がっていました。全身全霊で何かに向かっていく若者の潔さに、大きな喜びと力を頂きました。

(幼児保育学科教授
前田 美樹)



青森中央高校生との交流会

11月27日、青森中央高校生活科学系列の生徒さんと私たち青森中央短期大学幼児保育学科2年生の交流会が開かれました。当日は、高校生の皆さんからの質問に対しアドバイスを書き、発表を通してお互いの交流を深めました。質問には、入学する前にやっておいたほうが良いこと等があり、私達在学生は自分自身が入学する前に感じていた不安や、入学後にためになった読み聞かせや文章力をつけるための学習等を振り返り、思い思いにアドバイスをすることができました。この交流会を通し、高校生のみなさんが大学生活をより満喫できるものになればと期待しています。頑張れ青森中央高校生！！ (幼児保育学科2年 熊谷 沙希)



カワイピアノ演奏グレード5級合格

私は幼い頃からピアノを習っており、その頃抱いた夢に「ピアノの先生になること」がありました。短大では、授業内で取得できる級の他に、音楽教室の指導者としての能力検定を目指す事ができます。私は2年間で演奏グレード6級と5級の二つの級に合格することができました。練習の時間を捻出し、先生方の指導を受け、専門的な伴奏法や演奏法を身に付けていくのはとても大変でしたが、合格の通知を受けた時はとても嬉しく思いました。ひとえに指導して下さった先生方のおかげです。ここで得た事を現場で活かし、音楽の楽しさを伝えていきたいです。

(専攻科福祉専攻
前川 世佳)



トータル介護アドバイザー青山幸広の活き活き介護

福祉の仕事の大切さと魅力、その仕事の大切さを伝えるため福祉・介護の講座を実施し、将来に渡り福祉・介護人材の参入、育成その魅力を紹介する事業として、トータル介護アドバイザー青山幸広さん(本学専攻科福祉専攻2期生)の介護講座を開催した。本年度は広く、多くの人に福祉・介護を知っていただくために3地域(青森・弘前・八戸)小~大学生、高齢者や主婦等を対象に、実践的講座が開催された。保育士を経て介護福祉士となり本当の介護とは画一的な方法ではなく一人ひとりに寄り添わなければならないと教えていただいた。その中には科学的根拠があり、実践に活かす手法など「目からウロコ」で、福祉とはという基本に立った内容で、話術も軽妙で興味を引き出してくれるものであった。

(専攻科福祉専攻
准教授 中村 純子)



親子でそば作り体験

青森食育サポーター事務局では、子育て支援センターの親子を対象にそば作り体験を行った。そば粉を捏ねる作業は子どもたちが担当。ボロボロだった生地が、水を少しずつ加えて捏ね続けていくと徐々にまとまってくる様子を手で感じ、「だんだんおそばになってきたね」など声をかけ合っていた。出来上がった生地を切るのはお母さんたちの作業。こま板を使って幅を揃えて切っていくのだが、使い慣れない調理器具ということもあり、みな慎重に作業を進めていた。

最後は、親子で協力しながら作ったそばを試食。そばの幅がバラバラだったり、茹でている最中に切れてしまったりしたものもあったが、初めて自分たちで作ったそばは格別の味だったようだ。家庭ではできない体験にみな大満足の様子だった。中には「年越しそば作りにチャレンジしたい」と意欲を燃やす方もいた。

(あおり食育サポーター
事務局 山本 えり)



先生の自分史「先入観の怖さ」

幼児保育学科 伊藤 弓月 先生



神奈川県で生まれた私は、幼少の頃より、毎年正月といえば必ず、箱根駅伝を見物していました。父が母校の後輩達に声援を送るため、私を連れ自宅から歩いて数分の第4区（7区）のコース沿道に繰り出していたのです。

やがてそれが十数年続いた結果、私の中に「大学＝箱根駅伝に出場している学校」という、変な先入観が生まれてしまいました。

ですが、箱根駅伝はあくまで関東ローカルの大会です。したがってそれは単なる自分の“知らなさ”によるものであり、正に『井の中の蛙大海を知らず』そのものでした。

その後、実際の大学受験でそのような感覚にとられることは無く、入学後は充実した学生生活を送ることができましたし、今では卒業した母校を誇りに思える自分が居ます。

読んで欲しいこの1冊

食物栄養学科 下山 佳那子 先生

『レポート力アップのための情報探索入門』
東北大学附属図書館編（東北大学附属図書館、最新版2014）

学生の皆さん、レポート作成に自信をもって取り組んでいますか。私は大学時代、何となくレポートを書き、そこそこの評価を得て悔しく思うことが多くありました。しかし、今思うとそれは当然です。なぜなら当時の私は、そもそも「どのようなレポートが良いレポートなのか」を知らなかったからです。

そのような中で本書の旧版に出会い、レポートが、どのようなもので、何のために書くか、そして良いレポートを書くためにはどうすれば良いかを学びました。レポートが書けるようになると、授業に興味をわき、成績も良くなり、学生生活の楽しさが格段に増したことを覚えています。

気になった方は、東北大学附属図書館のウェブサイトをご覧ください。検索エンジンを用いる際は、「東北大学生のための情報探索の基礎知識」という検索語がおすすめです。

研究室を訪ねて Vol.9

～舛澤正博研究室～

私達の研究室では、高齢者に対する効果的な情報提供、慢性腎不全食に使用される低たんぱくご飯の活用、食後高血糖を予防する食事療法、短命県返上における青森県の取り組みとその課題、セイタンの可能性など、臨床栄養学で学んだ知識を生かした研究に取り組んでいます。文献調査を中心に研究を進めており、毎回難しい論文を読み、先生と意見交換をしています。

舛澤先生は、私達が求めたことに対して、親身になって協力してくれるとても優しい先生です。しかし、すぐに名前を忘れてしまうので、たくさんコミュニケーションをとって、覚えてもらうのに必死でした。

所属している学生は、明るく、マイペースで、個性豊かなメンバーばかりです。いつも色々な話をしながら、楽しく研究に取り組みました。

（食物栄養学科2年 佐々木 菜緒）



卒業生も活躍しています

幼児保育学科 41期生 浪打カトリック幼稚園勤務
長谷川 ほなみさん

幼稚園教諭になり、3月には丸3年が経ちます。今は年少組の担任として楽しい毎日を送っています。子どもたちの「一人で出来る・やってみる」という姿や、「自分で出来た」と喜ぶ姿を見ると、一人ひとりの成長を感じ、やりがいのある仕事だなと感じます。あっという間に1年が過ぎていきますが、春からの子どもの成長はとても大きいもので、その成長を近くで見守ることができるのはとても嬉しいです。

学年末には、新しく入園する子はどんな子か、どのクラスの担任になるのかとドキドキすることもあります。今一度自分の保育を振り返り、子どもたちの得意なことを伸ばしながら、楽しく活動が出来るような保育を展開していけるようにしていきたいと思っています。



それいけ幼保！探検隊 Vol.7

私は今回、保育内容研究（表現）bの授業で行われたクリスマスパーティーに注目しました！

保育内容研究（表現）bは1年生の授業で、1組・2組に分かれて行われます。現在は、実習で使う造形物の製作や、好きなキャラクター・人物などを模写することを学んでいます。

クリスマスパーティーは装飾班や企画班などに分かれ、準備しました。当日はダンボールで作ったクリスマスツリーやプレゼント、壁には「アナと雪の女王」のエルサとアナが飾られるなど、華やかな会場が出来上がりました。これらの造形表現を通して、子どもたちに楽しい時間を提供するための創意工夫を学ぶことができました。

（学生記者 池田 有里佳）



ちょっとした、ツブヤキ。 Vol.7

今回から連載となる、「ちょっとした、ツブヤキ」。毎回、本当にちょっとした出来事や気付きを皆さんへ紹介していきたいと思っています。お付き合い下さい。

私が1月4日に学校に来た時のことです。お正月期間ということもあり、学内のあちらこちらに鏡餅が飾ってありました。

・・・と、そこまではよいのですが、アレ？？？林檎？？？そうです、鏡餅の頂上に座っているのは、なんと「みかん」ではなく「りんご」だったのです！これは、林檎の名産地である青森ならではの光景なのでしょう。それとも、「ちゅう～たん」ならではの光景なのでしょう。皆さんのご意見をお聞かせください！

（学生記者 石川 寛子）



1人暮らしのレシピ Vol.8

今回は冬にオススメの「3種のきのこキムチ鍋」のレシピを紹介します。

キムチは健康に良いとされています。寒い時期こそ温かい鍋とキムチのピリリとした辛味で、体も心も温かくなりつつ、健康にも気を付けていきましょう。

【材料】（二人分）エリンギ 中2本・ぶなしめじ1/3パック・えのき1/2パック・ミニやっこ（豆腐）1パック・豚バラ肉100g・キムチ150g・ねぎ1/3本・にら1/2袋・水150ml・みそ 大さじ1.5・本だし少々

【作り方】

- ①エリンギは半分は切ってスライス。ぶなしめじとえのきは石づきを取りほぐす。豆腐は4等分に切る。ねぎは5mm程度のななめ切り、にらは5cm程度の長さに切る。
- ②全ての材料を鍋に入れ、水とみそ、本だしを入れ強火にかける。
- ③沸騰してきたら弱火にしコトコト煮込む。全体に火が通ったら完成。

にらの匂いが気になる人は、水菜で代用してもおいしく仕上がります。また、しめには、うどんを入れたり、ご飯を入れて雑炊にして食べるのもオススメです。



（学生記者 中村 舞七海）

考シリーズ～お正月料理考～

2015年になって1ヶ月以上たつわけですが、「お正月料理」にスポットをあててお話ししていきたいと思っています！

今回は「お正月に決まって食べるものはあるか」という質問をしました。まず一番多かったのは「お餅」。一番ポピュラーなものですね！その他には「寿司」「すき焼き」「茶わん蒸し」など各家庭違った料理を食べていました。

お正月といえば！「おせち料理」というイメージがありますが、今回聞いた方の中では「おせち料理」と答えた方は一人もいませんでした。ちなみに私の家では毎年おせちを食べます。中のおかずは運動会に持っていくお弁当状態ですが、作る過程や全員でお弁当を囲むのはやはり楽しいものです。

各家庭様々なお正月料理が挙げられましたが、楽しく全員で囲むことができれば何を食べても美味しいのではないかなと思います！皆さんは楽しいお正月を過ごせましたか？

（学生記者 三浦 和香）

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

教育方針

—健康で明るく心豊かな子ども—

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

認定こども園附属第一幼稚園

おゆうぎ会



〈年長児女の子によるお遊戯〉ポーズがとても可愛く、リズムに乗って楽しく踊ることができたね。



〈金のがちょう 舞踊劇〉笑わないお姫様を笑わせることができたトムの行列。めでたし、めでたし。



〈全園児による合唱〉心をひとつにして、みんなで楽しく歌ったね。

認定こども園附属第二幼稚園

もちつき会



あいどりは初めての経験。どきどきしながらやりました。子ども達は「べったん」「よいしょ」とかけごえで応援しました。



自分の食べる分のおもちをまるめて作りました。小さくちぎってまとめるのがおもしろかったです。おぞうにもおかわりする子がいっぱいいました。



できあがったおもちをぞうににってもらって、おとさん・おかあさんと食べるの最高に楽しいね。

認定こども園附属第三幼稚園

おたんじょう会



12月はお姫様が主役でした。



さあ、思い切りフ〜と火を消しますよ



こんなに大きなプレゼントももらいました。ごさげんです。

先生達活躍しています 第13回

子ども達の笑顔と成長のために
中央文化保育園



古川 真莉奈先生

私は今、中央文化保育園で栄養士として働いています。働き始めてからもう少しで2年が経ちますが、たくさんの方の事を周りの先生方や子ども達から学ばせていただいています。

栄養のことはもちろんですが、小さな子ども達が食べる給食のため、どのような切り方をしたら食べやすいか、どのような調理方法が好まれるのか、毎日が勉強です。

働いていて大変だと感じることもありますが、そんな時は作った給食を食べてくれる子ども達の「おいしかった」や「ごちそうさまでした」に救われています。

おいしくて栄養バランスの取れた給食を、愛情込めて作るのが私の毎日の目標です。これからも子ども達に喜んでもらえるようにがんばっていききたいと思います。

心豊かな保育をめざして
浦町保育園



八戸 恭枝先生

昨年引き続き、年中児の担任となり、子ども達の成長を日々実感しています。保育園は、人間の基礎ができる重要な場なので、子ども一人ひとりの個性や発達を見守り、認めていくことで、自信へとつなげ、子ども達が明るく楽しくのびのびと過ごし、思いやりの心を持てるよう保育しています。今のクラスの子供達は、元気いっぱいで大騒ぎになってしまうこともありますが、集中してやる時はやる！というメリハリを大切にしています。自らお手伝いしてくれるので、私の方が子ども達を頼りにしていることもたくさんあります。

嬉しい気持ち・楽しい気持ちを、体いっぱい表現したり、小さなことに感動したりと、温かい気持ちにさせてくれる子ども達。私も子ども達の素直さを見習い、人と人との関わりの大切さを感じながら、心豊かな保育をめざします。

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園附属第三幼稚園 嶋津 綾香先生

『あーと いてよ あー』

小野寺悦子文・堀川理万子絵 (福音館書店, 2009)

あーはあーでも色々なあーがある。上を向いてあーあーあー。うがいをしているあーかな？下を向いてあーあーあー。モグラさんげんきですか？今度は両手を広げてあーあーあー。広い野原でうたってる？なんだかとてもいい感じ。

あーと言って口をたたけばあわわわわ。声もくちもくすぐったい。あーと言って胸をたたけばあーあーあーあー。ぶるぶるふるえる不思議な声。ほんとにこれも自分の声かな？のどにそっと手をあてるとひびく、ひびく。手のひらにびりびり感じる。声は体の中から出てくる音。

嬉しいときはどんなあー？お母さんがおこったよ。どんなあー？大きな声であー。小さな声であー。あなたの一番いい声であー。

子どもたちと一緒に「あー」と声を出しながら読める楽しい絵本です。「あー」の一言で色々な感情を表現することができる、改めて考えることができる一冊です。



リーダーの資質を考える

認定こども園附属第二幼稚園



相馬 由香里先生

附属第二幼稚園に勤務し、10年が経とうとしています。

今は担任という立場を離れ、リーダーとして全体を見ながらまとめたり、時には先生たちに助言をしたりなど、仕事内容も以前とは変わりました。しかし、子ども一人ひとりと関わり合い、成長を感じながら見守る心は変わらずにいます。また、全体を見ている中で、今までよりもたくさんの子供達の成長や新たな発見を見取ることができるようになったのも嬉しい点です。

平成25年度に、附属第二幼稚園も認定こども園になり、0・1・2歳の子供達もいる中で、私自身も乳児の保育という新たな視野を持って、日々の関わり合いを大切にしています。3歳以上の子ども達も、赤ちゃんとの触れ合いを喜び、優しさや自立心などたくさんを学んでいる姿を嬉しく思います。

春は新制度スタートの年です。先生方と協力し合いながら、新しい認定こども園を築いていきたいです。

浦町保育園・中央文化保育園



〈11月30日(月) おゆうぎ会5才児男の子によるおゆうぎ「津軽の雪」〉ドキドキ・ワクワクしながら、りりしくかっこよいポーズを決めていました。拍手いっぱいうれしかったね。



〈12月9日(火) 特別養護老人ホーム三思園へ4才児女の子が慰問〉赤い着物で「津軽はね太鼓」を踊りました。一緒に手をたぎ、うたや手遊びでじゃんけんをして、笑顔いっぱいの楽しい一日でした。



〈雪遊び〉園庭にたくさん雪が積もりました。天気の良い日は毎日雪遊びです。楽しいな～

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

Bunka Fashion Live 2014

青森中央文化専門学校は12月20日、アウガ5階AV多機能ホールにてBunka Fashion Live 2014を開催した。今年度はテーマを「fiction」と題し、作り事や虚構をキーワードに様々なイメージからデザインを考案。全9シーン・60点のオリジナル衣装を発表した。

企画、演出、構成、照明、音響など試行錯誤しながらステージを作り上げた学生は自らもモデルとなり、ヘアメイクやウォーキングに至るまで日頃学んでいるトータルファッションとしての知識や技術も披露した。幻想的なデザインの衣装をはじめ、学園祭コスチュームショー「improbable」で発表したオリジナル作品の他、公募で参加したゲストモデルも登場した。



販売知識と技術を得た店舗実習

青森中央文化専門学校では、平成26年10月23日から11月27日まで、ファッション販売専攻の学生が店舗実習を行った。これは専攻別授業の一環として行われたもので、アウガ「PANAMA BOY」、イオンタウン樋の口「Right-on」、ドリームタウンALi「ARBARO unite」「GU」「BLANCHE」、中三青森本店「QTBT」、ラビナ「Carino」など多数の店舗にご協力をいただき、今年度も青森県内で実施された。

学生は日頃学んでいる販売の知識や技術を存分に活かし、来店した多くのお客様に精一杯の接客を行った。今回の実習を通して、夢であるファッションアドバイザーへの決意を新たにするとともに目標に近づく大きな経験と自信を得ることが出来た。



駅からハイキング&ウォーキング

観光コンシェルジュコース在籍の学生と観光情報サークルの学生が企画・立案した「駅からハイキング&ウォーキングイベント」が、平成26年12月20日、実施された。

このイベントは、JR東日本が青森駅を起点に、地域の観光素材を歩いて楽しむ目的で主催している様々なイベントの一つであり、今回、青森中央経理専門学校学生が考えたコースが採択された。学生5人で県内外からの参加者29名をアテンドし、晴れやかな青空が広がる中、版画家・棟方志功と作家・太宰治ゆかりの地を散策し、約7キロのコースを巡りながら歴史に触れた。また、同日開催したBunka Fashion Live 2014も観覧し、過去・現代の青森芸術に幅広く触れた。



学生パソコン教室～ワードで年賀状作成～

青森中央経理専門学校では平成26年11月1日、学術交流会館3階935教室にて学生主催のパソコン教室を開催した。一般の方々を対象とした無料パソコン教室は、学生が地域住民の方々と触れ合いながら地域貢献と社会参加の大切さと、各自が役割を持つことで、組織の中で考え、自ら行動することをめざして毎年開催している。インストラクター役の学生は、参加者が作成したいデザインの年賀状を、パソコン操作とデザイン等のアドバイスをしながら、約2時間で作成。参加者の方々からは、「大変親切で、手にとるように教えて頂き感謝しています。」と感想を頂き、学生達は自分の成長に繋がる時間を過ごした。



経理発信情報 Vol.13

～青森中央経理専門学校 研修旅行～

10月8日～10日の2泊3日、職業教育機関の研修旅行として、「業界」を体感し見聞を広める目的で東京都内へ研修旅行を実施した。

1日目は「東京証券取引所」を見学し、日本経済の株価状況と歴史を学び、2日目の自主研修は公衆道徳やビジネス社会に触れた。3日目は経理・医療・観光の各コースに別れ、コースに添った業界を訪れた。

医療事務コースの学生は、東京大学医学部総合中央館にある「健康と医学の博物館」を訪れ、企画展の「こどもの発達と成長」を観覧した。お母さんの胎内で発達する過程を見ながら、「子ども」が健やかに成長していく様子学び、知識を深めた。



おすすめ図書 vol.12

青森中央文化専門学校 牧野 晴子 先生

『フランス人は10着しか服を持たない
～パリで学んだ“暮らしの質”を高める秘訣～』
ジェニファー・L.スコット著、神崎朗子訳(大和書房、2014)

本屋さんで「服」というキーワードが目にとまり手にしたこの1冊。日常の中に、ささやかな喜びを見つけ、毎日を“特別な日”のように生きることが書かれています。

タイトルからは、ファッションの内容を連想しますが、アメリカ人の著者が、フランスの貴族の家にホームステイすることになった経験から、その家のマダムに学んだ、生き方についての提案がなされています。手持ちの服を10着だけと意識することで、自然と自分らしい服選びに繋がられるなど、心にスッと入ってくる言葉ばかりです。

生活の質について素敵な心構えだと感じ、私自身も使い捨て文化を見直す、良いきっかけになりました。たくさんのモノが溢れている時代だからこそ、上質な物を少しだけ持ち大切に使い、毎日を大切に過ごそうと心掛けたくなる1冊です。

本学で学んだ皆さんにも、教養を身につける、ささやかな喜びを見つけるなど、著者の言葉通り、情熱的に生活を心から楽しんでほしいと思います。

ファッション通信 vol.12

～軽やかでゴージャスな感覚の
フェミニンルックにユーモアをプラスして～

2015春夏は、軽やかで楽しそうなフェミニンスタイルがオススメ!

新しいシーズンを迎え、全体的に穏やかな雰囲気気がトレンドのベースです。軽やかでゴージャスな感覚のフェミニンルックで優雅なスタイルを演出すれば、今季のスタイルは気持ちも楽しく、リフレッシュできるはずですよ。

カラフルフラワープリントや、軽やかにリボンやレースを使うのがポイントです。また、白い絵の具に色を少しだけ垂らしたような淡い色調を使い、かわいい着こなしを演出できるアイテムで、シーズンを楽しみましょう!



(記事・デザイン画：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.24

青森中央文化専門学校 平成22年度卒業
株式会社ルートファッション(ソーイングスタッフ)勤務
小笠原 華子さん

私は、青森中央文化専門学校を卒業後、青森市内にある縫製工場でソーイングスタッフとして働いています。在学中は作品制作を通して服飾全般について学び、現在はチーフ補佐として主にボトム製品の縫製をしています。もっと工業用ミシンを練習しておけばよかったと思うこともあり、今も技術向上をめざして頑張っています。チーフ補佐というポジションに就き、今後は仕事の状況を読めるようになり、グループの士気を高められるようになること目標にしています。

後輩の皆さん、在学中いろんなアイテム制作にチャレンジし、基本構造を理解しておく、仕事の理解度が上がります。また、ファッションだけでなく、ビジネス実務で学んだことが活かしていると感じています。報(告)連(絡)相(談)を基本に、余裕を持って期日前に仕事ができるようにこれからも頑張ります。



学園共通

学生がデザイン！キャンパス・イルミネーション

当学園では、今年もキャンパス・イルミネーションを実施した。点灯式では、青森中央短期大学附属第一幼稚園のお友達のカウントダウンを合図に、18,000個の色とりどりのライトが一斉に冬の夜空を彩った。

今年のイルミネーションは、青森中央学院大学経営法学部生によって構成されたプロジェクト・チームにより企画運営がおこなわれ、全体のデザインやコンセプトのほか、点灯式の企画や司会を含む直接的な運営まで、およそ4ヶ月の時間をかけて実現となった。

キャンパスの外から地域の皆さまに楽しんでいただけるように設置された、正門周辺のイルミネーションのほか、青森中央学院大学の看護学部設置記念として植樹された3本のエゾアカマツにも装飾がなされ、冬のキャンパスを彩った。

キャンパス・イルミネーションプロジェクト

経営法学部2年
鳴海 しづの、相馬 芹香、
大高 早映子、渡邊 莉乃



図書館情報センターより～寄贈図書紹介～

前弘前大学学長で名誉教授でもある遠藤正彦先生、弘前市にある佐藤外科院長 佐藤眞先生より、本学図書館情報センターに図書を寄贈いただいた。ご寄贈いただいた図書は、いずれも本学図書館情報センターでは収蔵しておらず、現在では入手が困難になっている貴重な医学書などである。

両先生のご厚意に感謝申し上げますとともに、本学学生や教職員はもちろん、卒業生も含めて末永く活用させていただきたい。寄贈図書は、ラーニングコモンズ側に特設コーナーを設けて配架しており、多くの利用者に活用して欲しいと願っている。

図書館情報センターでは、医学・看護分野をはじめとする各分野の図書の寄贈を随時受け付けている。ご寄贈図書の受け入れは所定の手続きや基準があるため、事前にご一報いただくと幸いです。詳しくは本学図書館情報センターまでお問い合わせ願いたい。



平成26年度クリスマス親子クッキング

本学では毎年特色を活かした公開講座を実施している。中でもクリスマス親子クッキングは10年以上続いている人気講座である。毎年、家庭で作りやすいように身近な食材を一工夫したクリスマスメニューを提案している。また本講座は未就学児や低年齢の子どもの参加も多いため、簡単に楽しんで作業ができるような工夫もしている。今年度のメニューは「ごはんピザ」「原始人の肉風ハンバーグ」「コールスローサラダ&トマトサンタ」「クリスマスツリーのクッキー」であった。保護者の力を借りながら子どもたちは眼を輝かせながら熱心に作業を進めていた。中には苦手な食材があった子どももいたが、自分で作ったことにより「おいしい」といって食べていた。本講座を通して親子で食に興味・関心を持つ機会になることを願っている。(食物栄養学科助教 森山 洋美)



図書館情報センター公開講座

図書館情報センターでは毎年公開講座を開催しており、今年度は「本に親しみ、飛び出すカードを作ろう」をテーマに、11月27日に「絵本の魅力に親しもう」、12月20日に「飛び出すカードの作成に挑戦」2講座を開催した。

第1回講座では、講師の青森中央高校教頭 秋田敏博先生から絵本の読み聞かせの大切さなどを学び、読み聞かせの実演も見学した。

第2回講座では、図書館でコレクションしているしかけ絵本の紹介とともに、講師の成田良子先生に作り方のコツを教わりながら、雪だるまやツリーなど、冬のモチーフを中心とした飛び出すカードを作成した。

両講座とも、参加者から「楽しかった」との感想が寄せられ、絵本の楽しさを十分伝えることができた。

図書館情報センターでは今後も公開講座を開催する予定である。是非、ご参加いただきたい。



幼稚園教諭免許状・保育士資格 取得特例講座

認定こども園法改正に伴い、平成27年4月より「幼保連携型認定こども園」が創設され、幼稚園教諭及び保育士資格の両方をもつ「保育教諭」の配置が義務付けられました。これに伴い、「保育士を持たない幼稚園教諭」及び「幼稚園教諭を持たない保育士」の方を対象として、幼稚園教諭免許状または保育士資格の取得単位数が軽減される特例措置が設けられました。

本学では、この特例措置に対応する【幼稚園教諭免許状取得講座】を全科目、【保育士資格取得特例講座】においては、「福祉と養護」「保健と食と栄養」の2科目を開講します。

募集概要

1. 基礎資格

- ・幼稚園教諭免許状または保育士資格を有している方
- ・実務経験3年以上かつ実労働時間4,320時間以上の方及び見込の方

2. 開講科目・日程

幼稚園教諭免許特例科目 (6/6～8/30)

教師論、教育総論、保育内容総論、教育方法論、幼児理解

保育士資格特例科目 (6/6～7/18)

福祉と養護、保健と食と栄養

※「相談支援」「乳児保育」は青森明の星短期大学にて開講予定です。直接お問合せ下さい。

3. 受講定員 各科目100名 ※先着順

4. 受講料 1単位につき10,000円
※テキスト代別途徴収

5. 開講要領

- ①申込期間 3月2日(月)～4月30日(木)
- ②受講申し込みについて(申込書請求方法)
特例講座受講申込書請求書に必要事項を記入し、FAXにて受講申込書を請求。

6. お問い合わせ先

青森中央短期大学 学務課
〒030-0132 青森市横内字神田12
TEL: 017-728-0121 / FAX: 017-738-8333
URL: <http://www.chutan.jp>

平成26年度青森中央学院大学看護学部公開講座

看護学部では開設後初めての公開講座として、「これからの高齢社会をどう生きるか」～老後を生き生きと生きるために～を企画した。日本の高齢化率は24.1%^{*1}、青森県においては27.6%^{*2}であり、超高齢社会に突入している。さらに、「認知症」「高齢者医療」「在宅医療」などが社会的課題となっている。そこで自分の老い、家族の老いなど高齢になってからの生き方について考えるきっかけになればと思い企画した。

公開講座は第1回『最期まで自分らしく過ごしたい～「いえで死ぬるの？」～』(泉美紀子:地域・在宅看護学講師、訪問看護認定看護師)、第2回「認知症の人と上手につきあうには」(山田皓子:老年看護学教授)の講演が行われた。いずれの講演も参加者は30歳代～70歳代と幅広く、特に50歳代～70歳代の方の参加が多くみられた。講演後には、「90歳代になる母がいたので講座を申し込みましたが、自分自身のためにもなり参加してよかったです」「事例の紹介が理解しやすく認知症の実態を知ることができました」など知識が深まったこと、考えるきっかけとなったことが感想として

聞かれ、好評を博したことが伺えた。

看護学部開設に伴い、多くの専門分野の教員が着任された。今後は地域における様々なニーズに対応した企画をしていきたい。

(看護学部地域社会活動委員会)



※1 内閣府HP 平成25年度版高齢社会白書
※2 県庁HP 青森県高齢者人口等調査 2014年3月27日 高齢福祉保険課



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、5月発行予定の93号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■93号応募締め切り：4月17日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第92号

発行日：2015. 3. 4

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

松島 正起

木村 貴子

坪谷 輝子

岩葉 悦子

中田 尋美

加藤 澄

浜中 幸美

佐藤 紋子

赤坂 敦子

高橋 晴美

学生記者

中村舞七海

池田有里佳

三浦 和香

石川 寛子